

日本国内における PIERS 事業化可能性検討調査 2019

国内3地域における親水空間の実態調査

調査の目的・進め方

調査報告会の概要 (R2/12/11&12/14)

「第7回 PIERS フォーラム 海辺を生かした街づくり」

PIERS 研究会

博多湾及び関門海峡地域調査チーム

日本海沿岸越後地域調査チーム

東北震災復興地域 (岩手・宮城)調査チーム

はじめに

PIERS 研究会が2013年6月に発足して7年、皆様のご支援を賜り活動してまいりました。この間、3度の英国栈橋調査と蘭伯独の栈橋調査を行い各国の栈橋の実態と魅力度について報告してまいりました。栈橋が我が国の海岸利用を豊かにするとの思いから、海岸の在り方についての提言もまとめ、発表しました。また2017年から PIERS フォーラムを立ち上げ、栈橋の実現についての働きかけの活動を続けてまいりました。

2019年からは、海外調査で得られた現地情報とそれらの分析成果、フォーラムでの議論を踏まえ、PIERS 研究会の原点である「海外の栈橋の魅力を日本国内の親水空間で実現したい」思いに向けて、国内での調査研究に重点的に取り組みたいと考えております。2016～17年にかけて「沿岸域における地方創生研究会」で国内8海岸のケーススタディを実施しましたが、対象地域をさらに幅広くして「日本国内における PIERS 事業化可能性検討調査」を立ち上げることにしました。

英国栈橋や欧州栈橋調査に参加したメンバーを中心に、わが国の海岸線を踏査し、海岸の実態調査をもとに、海外の海岸や親水空間あるいは海岸リゾートの知見を踏まえて、わが国の海岸や親水空間あるいは海岸リゾートのあり方を評価し、今後の豊かな海岸づくりに寄与したいと考えています。

今回の調査では、特色の異なった3つの地域を選びました。

「博多湾、関門海峡地域」背後に大都市を抱え、連担する長い海岸線は様々な利用が
図られている。人工海岸が多い

「日本海沿岸越後地域」長い海岸線は自然豊かな海岸が多い、海岸ごとに特徴ある
利用がされている。

「東北震災復興地域（岩手、宮城）」東日本大震災の津波被害の後、復興が進んでいる
東北の海岸（海岸防護と街づくりや海岸の利用について）

今回に調査においても、これまでPIERS 研究会の活動に参画いただいた協会や企業に調査への参加をお願いしたところ、快く調査団員の派遣にご協力いただきました。心から感謝申し上げます。

事前調査や現地調査においてご協力いただいた、国土交通省地方整備局や内閣府復興庁岩手復興局、関係自治体、開発関係者などの皆様に深く感謝申し上げます。

今回の調査で得られた成果を対象地域の豊かな海岸づくりに寄与できるよう今後努力を重ねてまいりたいと考えています。ご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。

I. 調査概要

I-1 調査目的

PIERS 研究会では2013年の発足以来、3年にわたる英国棧橋調査、蘭伯独欧州棧橋調査、全国8海岸でケーススタディとして、棧橋（Pier）を活かした海岸づくりのイメージの提示、Pierの実現を目指すためのPIERSフォーラムの開催などの活動を行ってきた。

「PIERS研究会の思い」は英国など欧州の棧橋の素晴らしさを実感した結果、日本国内においても棧橋を活用して海岸を含めた親水空間の魅力を向上させることができる というものである。海岸線に恵まれたわが国において魅力的な海岸やそれに連なる親水空間は数多く存在する。PIERSの事業化の可能性を検討するために、わが国の海岸や海岸利用の実態について調査し、関係機関からの情報収集、関係者とのディスカッションを行いこれまでの海外棧橋調査で得てきた知見を活かし、豊かな海岸、親水空間づくりに寄与するPierの実現をはかりたい。

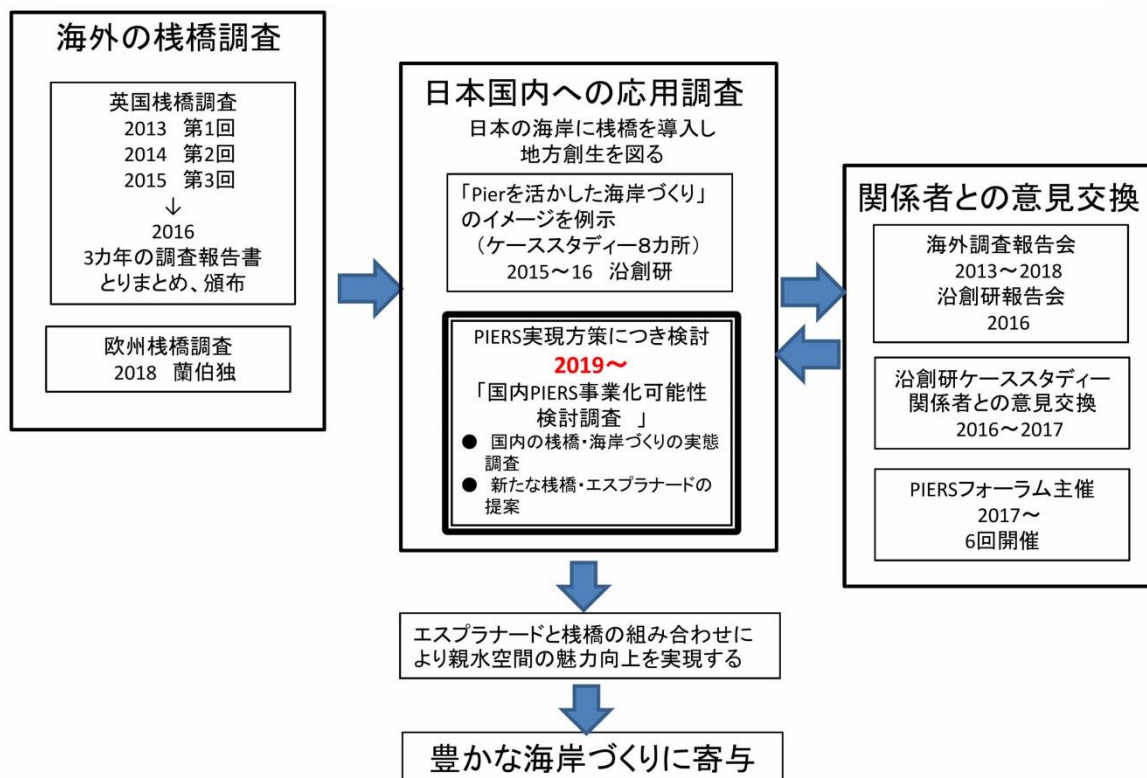


図1. 1 PIERS研究会の取り組み

I - 2 調査の進め方

今年度の調査では『我が国の沿岸における親水空間づくりの実態調査 2019』として、2つのテーマで取り組むこととした。

① 日本各地の欧州栈橋と類似する施設の実態調査

<調査の視点> ・調査親水空間の魅力度 ・アクセス等背後地との関係
・利用の実態 ・事業化の経緯、手法

<提案の方向> ・「日本における PIERS」の評価のとりまとめ
・対象空間での魅力度向上の方向についての検討

② 震災復興地域における親水空間の実態調査

<調査の視点> ・海岸防護と街づくりの関係 ・現地親水空間の魅力度

<提案の方向> ・対象地区の復興計画実現後の市民と海との関わりについての検討
・日本全国で今後高潮等防護を計画する際に親水空間を活かすための知恵のとりまとめ

PIERS 研究会での検討の結果テーマ別、地域別に3つのルートで実施することとした。

「博多湾・関門海峡地域」 福岡市、北九州市、下関市などの大都市の前面に展開し、長い海岸線は風光明媚で、有名な地域である。

背後都市からの利用者が多く、海岸線に沿った長いエスプラナードを有している特徴のある海岸である。博多湾、関門海峡それぞれが大きな地域ブロックとして海岸の利用や親水空間の形成が図られてきた。現地調査によって、国、自治体、の関係者やこれまで海岸利用に関係した方々からの情報収集やデスクッションでこの地域の海岸や親水空間、エスプラナードなどにどのような魅力度を付加できるか楽しみな地域である

「日本海沿岸越後地域」 日本海沿岸には優れた海岸の景勝地が数多く存在する。越後地域（新潟県）に限っても、多くの特徴を持った海岸が存在し、それぞれが特色を持った利用が図られている。海岸ごとの海岸利用と親水空間の実態調査をもとに、これまでの栈橋調査で得られた知見と比較考察していくことにより新たな魅力度の付加を期待したい。

「東北震災復興地域（岩手・宮城）」 東日本大震災の津波によって壊滅的な被害を受けた東北の太平洋沿岸の海岸も復興が進み、防潮堤或いは高台移転などの方策によって海岸防護が図られ、街づくりが進められている。街と海の高く鋭い防潮堤が建設されこれまで地域の人々が享受してきた豊かな海

との生活が阻害されるといわれてきた。その実態がどうか、海岸防護と街づくりや親水空間の形成や海岸の利用がどうなっているか現地調査で明らかにしてほしい。

対象地域は広範囲であるが今回は岩手県の南半分と宮城県の南部平野部地域とした。

調査メンバーはPIERS研究会の海外調査や沿創研に参加経験のある者が望ましいがPIERSフォーラム等を通して研究会の趣旨に賛同される方も大歓迎である。

これまでPIERS研究会の活動に協力いただいている協会、企業に職員派遣をお願いしたところ快く職員の推薦を頂いた。参加者は研究会が提示した3つのコースから希望のコースを選び調査団が作られた。調査団ごとに事前検討によって、調査の目的、調査対象、行程等が決定された。各調査団は10月から12月にかけて概ね3日程度の実働日数で調査を実施した。詳細は各調査報告書に記載している。

3つの調査団は現地において多くの人々にお世話になりました。特に国土交通省の東北・北陸・九州地方整備局の関係者の皆様、海岸のある地元自治体の関係の方々、そのほか調査に関して協力頂いた方々には様々のご協力、ご支援を頂きました。心から感謝申し上げます。

(第I章執筆者：古土井光昭)